

は、その上限を八世紀前半に求めることができ、東大寺の前身としての金鐘寺に関連するものであると考えられる。

他に「一期(新)」に属すると考えられる土層中からは「東寺」「造寺」

「上院」「大同」等の墨書きのある土器が出土している。

8 木簡の釈文・内容

(1)

×之×

(108) × 30 × 1 691

(中井一夫)

奈良・藤原宮跡

1 所在地 奈良県橿原市繩手町・飛驒町
西面中門地域 一九八三年(昭58)八月～一二月、
宮南面外周帶地域 一九八三年八月～九月

2 調査期間 西面中門地域 一九八三年(昭58)八月～一二月、
宮南面外周帶地域 一九八三年八月～九月

3 発掘機関 奈良国立文化財研究所飛鳥藤原宮跡発掘調査部
4 調査担当者 狩野久

5 遺跡の種類 宮殿・官衙跡
6 遺跡の年代 七世紀末～八世紀初頭
7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

一 西面中門地域 (第三七次調査)

当調査は宮の西面で、宮の東西中軸線上の西面中門推定地で行った。面積は100.8m²である。

検出した主な遺構は、西面大垣・外濠で、予想された西面中門は後世の削平をうけて検出できなかつた。その他には藤原宮期以後の井戸や土壙がある。木簡は外濠から二点出土した。

大垣は調査区南端で四間分の柱掘形を検出した。その規模は、掘形の一辺が一・五m、柱間は二・六六m(九尺)等間で、従来の大垣の所見と一致する。西面中門は検出できなかつたが、大垣の柱掘形がとぎれる所から北が中門跡と考えることができる。宮の中軸線と

兵庫県・山垣遺跡の発掘調査概報

第五回木簡学会の研究報告で関心を集め、本誌にも紹介されている山垣遺跡の発掘調査概報が刊行された。八世紀初頭に遡る里に関連した役所の可能性がある遺跡で注目されるが、概報では遺跡・遺物の詳しい解説の他、木簡全点の釈文と写真が掲載されており有益である。

兵庫県教育委員会発行

『山垣遺跡(近畿自動車道関係埋蔵文化財発掘調査概報)』

(B五版 三〇頁 一九八四年三月刊)